

2010年(平成22年)5月23日 日曜日 地域総合 (22)

# 消費者の声で商品改良

## 「逸品」プロジェクト始動 倉吉

鳥取県中部の農産物や加工品をはじめとする商品を、モニターリングを通して中部を代表する「逸品」に育てるプロジェクトが始まった。倉吉市西倉吉町のJA鳥取中央ファーマーズマーケット旬鮮プラザ満菜館内に第1号のモニターブースが設けられ、22日に同所でオープンセレモニーが行われた。

「みんなの『逸品』プロジェクト」は鳥取県中部、ふるさと広域連合の委託事業として、中部地域の農産物や加工品の販路拡大を目指す新産業共通基盤プロジェクトチームがモニターブースを設置した。モニター商品は約1カ月間販売され、味や量、パッケージなどについて消費者からの声を集め商品改良に役立てていく。「逸品」に認定されれば、協力店舗での常時販売や東京や関西のレストランやスーパーなどにも商品売り込んでいく。



満菜館に設けられたモニターブースで商品の品定めをする来店者=22日、倉吉市西倉吉町のJA鳥取中央の満菜館

第一弾は梨ジャムや

梨を使った焼肉のたれ、梨せっけん、トマトケチャップ、手焼きせんべいなど15品目が並んだ。セレモニーでは関係者ら約100人が出席。新産業共通基盤の森和美会長と、JA鳥取中央の福山巖副組合長、鳥取中部、ふるさと広域連合の石田耕太郎連合長が「生産者、商業者、消費者が一体となつてさまざまな商品を生み出し、鳥取県を表す商品を全国へ送り出したい」とあいさつし、テープカットをしてオープンを祝った。